

在宅ケアシステム論	3年・後期	1単位	教授 石原 美由紀
科目カテゴリー	看護提供のあり方	科目ナンバリング	33310873

1. 授業のねらい・概要

本科目は、在宅看護を必要とする人々の身体的・精神的・心理的・社会的特徴を理解し、保健・医療・福祉の課題について学ぶ。また、在宅看護における特徴的な事例の看護過程を展開し、在宅ケアマネジメントと関係機関・関係職種間の連携、社会資源をつなぐ在宅ケアシステムの構築の必要性和看護職の役割について理解する。

2. 到達目標

1. 在宅療養者と家族の保健・医療・福祉の課題について理解できる。
2. 在宅療養生活における社会資源の実際の活用方法が理解できる。
3. 在宅看護過程の展開から在宅ケアシステムの構築の必要性和看護職の役割が理解できる。

3. 授業の進め方

講義とグループワークを中心に授業を行う。

4. 授業計画

1. 在宅ケアとケアマネジメント	9. 在宅療養に関連する社会資源⑤（難病対策）
2. 在宅ケアマネジメント（演習）	10. 在宅療養に関連する社会資源⑥（その他の社会保障）
3. 地域におけるシステムとネットワーク	11. 事例から在宅ケアシステムを考える①（老老介護）
4. 地域包括支援センターと地域ケア会議	12. 事例から在宅ケアシステムを考える②（認知症高齢者）
5. 在宅療養に関連する社会資源①（訪問看護サービス）	13. 実習事例による看護過程展開
6. 在宅療養に関連する社会資源②（介護保険制度）	14. 看護過程から在宅ケアシステムの展開①（グループワーク）
7. 在宅療養に関連する社会資源③（介護保健サービス）	15. 看護過程から在宅ケアシステムの展開②（発表・まとめ）
8. 在宅療養に関連する社会資源④（障害者総合支援サービス）	

5. 成績評価の方法・基準

定期試験 70%，課題レポート 20%，平常点 10%基に総合的に評価する。

6. テキスト・参考文献

テキスト：臺有桂・石田千絵・山下瑠理子（2018）：ナーシング・グラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版

参考文献：正野逸子・本田彰子（2018）：看護実践のための根拠がわかる 在宅看護技術 メヂカルフレンド社

7. 準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な学習内容

次回講義で行なう内容についてテキストを読み予習すること。また、受講後は授業の内容をノートにまとめて復習すること。

8. 受講上の留意事項

実習で受け持った事例をもとに演習を行います。講義やグループワークには積極的に参加して下さい。

9. 課題に対するフィードバックフィードバック方法

提出された課題は教員が内容をチェックして返却する。内容が不備なものは再提出を求める。試験の結果と模範解答は後日掲示する。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

必修科目であり、修得できない場合進級不可となる。